

令和8年度 地域連携推進会議議事録

実施日時	令和8年6月14日（日） 14：00～15：00		
実施場所	ここいる リビング	記録者	有本 悟
出席者	・ 阿部 忠幸（前前橋市議会議長）・ 西村（ワークスタジオGH管理者） ・ 岩井勇氣((株)エンジョイント管理者） ・ 星野 真日（利用者,母）・ 島田 亮太（母）・ 朝倉 周平(利用者） ・ （ここいる職員）大竹, 佐藤, 深沢, 駒村, 有本		
議 題			
1. 代表挨拶 2. 自己紹介 3. 会議の目的・役割 4. 法人・施設の概要、支援方針など 5. 地域連携推進委員会の意義の確認 ・ 地域の関係づくりやサービスの透明性の確保等 ・ 施設利用者に関する理解の促進 ・ 構成員における利用者またその家族の個人情報の秘密保持 6. 施設の実組み（社内研修） 7. 施設内の見学を通じて、現場の理解を深める機会の提供 8. 地域住民や関係者との意見交換、課題共有、改善提案、要望 今後の連携に向けた意見等 9. 閉会			
議 事 内 容			
1. 代表挨拶 2. 自己紹介ー参加者自己紹介 3. 会議の目的・役割 <目的> ・ 地域と連携し、ホームの運営を社会に開かれたものとする。日々の支援内容や取組みを地域に広く周知し、地域の理解と信頼を深める。 ・ 外部の目を取り入れることで、他の施設との情報交換・連携を促進し、優れた取組みを共有・導入して支援の質を向上させる。 ・ 第三者の評価・助言を受け入れ、支援の質を継続的に改善する体制を確立する。 ・ 外部の目を持続的に確保することで、不適切なケアや虐待リスクを未然に防止する抑止力を高める。 ・ 地域と手を携え、誰もが安心して暮らせる透明性の高いホーム運営を実現する。 <役割> ・ 地域の一員として利用者が安心して生活できる関係性を構築し、地域住民にホームの役割と利用者の生活を理解してもらう。 ・ 地域に開かれた施設を目指し、地域社会との協働を推進する。 ・ 第三者・外部の目を取り入れる仕組みを整え、サービスの質の向上・改善の機会とする。			

- ・ 令和7年度より義務化された本会議を通じ、地域との連携を強化して利用者の権利擁護・意思決定を支えるより良い支援体制を構築する。

4. 法人施設概要・支援方針

2004年に法人設立し2018年4月から共同生活援助ここいるcocoiruの事業を開始。

法人として援助が必要な心身障害児・者その家族、その他支援が必要とする人々に対して相互扶助の精神にのっとり、地域に根ざした介護サービス及び必要な援助を提供し、人々が健やかに暮らせる地域づくりと福祉に寄与することを目的としている。

利用者一人ひとりに寄り添いQOLの向上、子供の健全育成・療育の活動、障害があっても楽しく安全に毎日が送れるように支援をしていく事を目指している。

5. 地域連携推進委員会の意義の確認

1) 地域との関係づくりとサービスの透明性確保

- ・ 地域住民が顔の見える関係性を通じて、利用者が安心して暮らせる環境を確保する。
- ・ 地域行事への参加や日常的な交流を促進し、地域との信頼関係を深める。
- ・ 地域社会からの理解が得られない状況にも根気強く取組み、継続的な対話と情報提供を行う。

2) 施設利用者に関する理解の促進

- ・ 地域の人々に施設利用者の生活像を伝え、障害者施設に対する理解を深める。
- ・ 施設が地域に開かれた存在となることを目指し、利用者が楽しく幸福に生活できる環境づくりを推進する。

3) 個人情報の適切な取り扱いと秘密保持の徹底

- ・ 委員会の構成員である利用者およびその家族の個人情報を適切に保護する。
- ・ 外部の目を取り入れることで、閉鎖的になりがちな施設運営の透明性を高め、会議を通じて運営状況やサービス内容を共有・改善につなげる。

4) 委員会の基本的な役割と運用方針

- ・ 外部の視点を適切に取り入れ、サービスの質の向上とリスクの早期発見を図る。
- ・ 地域との協働を通じて、利用者の権利擁護と意思決定支援を強化する。
- ・ 個人情報保護、倫理的配慮、透明性の確保を運営の基本原則として徹底する。

6. 施設の実践（社内研修）

1) 防災訓練と安全対策

- ・ 毎月11日に避難訓練を実施し、全職員の避難行動を徹底している。
- ・ 年に1~2回、東消防署の専門指導の下で訓練を実施し、最新の防災知識と技術の習得を図っている。
- ・ 全室にスプリンクラーを設置し、建物の気密性と安全性を向上させる設備を整えています。これにより、火災時の初動対応と被害の最小化を狙います。
- ・ 水資源の確保として貯水タンクを保有し、万が一の水源断水時にも飲料水を確保できる体制を整えています。

2) 夜間を想定した訓練計画

- ・ 今年度は夜間を想定した訓練強化を行います。どのような想定で、どのような運用スタイルで行うべきか、実効性の高い訓練計画を策定しています。
- ・ 夜勤者が1名体制となる場面を想定し、さまざまな状況に対応できる対応手順と連携体制を検討します。緊急連絡網・避難経路・連携先の確認等。

3)垂直訓練と水害対策

- ・ 今年度は垂直訓練を実施します。水害を想定し、歩行困難な方をどのように安全に垂直方向へ避難・搬送するか訓練します。
- ・ 水害時の避難ルートを明確化し、訓練を通じて実践的な対応力を高めます。

4)備蓄品

- ・ アルファ米を利用したおにぎりの備蓄を行っています。3種類の味を用意し、6年間の保管期間と品質管理を徹底します。
- ・ サバイバルフーズを中心とした長期保管食品も備蓄しており、30年程度の保管が可能な物資を含め、万が一の長期備蓄にも耐える体制を整えています。
- ・ 甘味を含む菓子類も保管しており、栄養バランスを考慮しています。

5)備蓄品実食の感想

※参加者へ試食していただきました。

- ・ アルファ米とは思えない
- ・ 水から簡単に作れていい
- ・ 少ししょっぱい気もする
- ・ ちょうど良く美味しい

などの意見をいただいた。

7. 施設内の見学を通じて、現場の理解を深める機会の提供

各居室、浴室、トイレ等の設備、事務所、備蓄品の確認、食事メニューの紹介

- ・ 居室、リビング、浴室、キッチン等、消臭消毒機器等を活用し清掃を徹底している。
- ・ 洋服、下着、パジャマ等の洗濯。外干しはせずアレルギー対策として除湿乾燥機を活用している。
- ・ 利用者全員が毎日入浴し、清潔保持に努めている。
- ・ 食事は手作りをし、アレルギー等に考慮し添加物をできるだけ控えた良質な食材を選び、安心して食事を楽しめるように工夫してる。

8. 地域住民や関係者との意見交換、課題共有、改善提案、要望

昨年の要望等

- 1) 昨年の会議にて地元区長よりホーム居住者の名簿を知りたい（提出）との要望があった。

A- 市役所に確認を行ったところ、個人情報なので区への提出は必要ないとのこと。
非常時にはフェイスシートで対応。

- 2) 看板の設置の要望について。

A- ポストに表示するのみで、看板の設置は現在予定はない。

今後の連携に向けた意見等

- 1) 組織全般の体制として透明になっているので、毎回会議を開かなくても透明性は図られている。

- ・ 今後も地域行事や日常的な関わりを通して、地域の皆様にここにいるを知っていただき相互の理解と連携を進めていきたい。身近なところから一歩ずつ交流を重ねるご理解をいただけるよう努めていく。また、緊急時の対応を円滑に行うために、地域防災体制の中で、GHとしてどのように連携ができるかを検討し、必要に応じて情報共有や協力体制づくりをすすめていく。